

Q41 知的障害者から受任した事件を進める上で専門家の協力が必要だと思いますが、どのような方に協力を求めたらよいのでしょうか。

基本的には、本人と関わりの深い方の方が本人の障害特性等を理解しているために的確に判断できると思われます。家族や本人の主治医、学校時代の教師やずっと援助してきた施設職員など本人との関わりの深い人から障害の基礎的知識、障害の内容や特性、記憶、言語表現の特徴などを教えてもらうことが重要です。

ただ、裁判上の証人としては、本人との関係が深いと信用性に疑問がもたれる可能性もあります。裁判上は、鑑定的な意味で心理学者による供述分析、主治医、小児科医師、養護学校教師など知的障害者に関わる立場にいる様々な専門家による協力が考えられます。

また、訴訟だけでなく、施設・学校などとの交渉を行う場合には、施設の処遇の実態について知識のある学者や施設職員、教師などの協力を得ることは、問題点を把握し、どのように現状を改善するか of 具体的提案を行うためにも重要です。